MONKEY（FI） R－Stage用
FIコンPLUS　取扱説明書

・この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。
　使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。
・取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。
　万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

商品番号　　：０３－０５－００１７
適応車種　　：HONDA　Monkey（FI）
フレーム番号：AB２７－１９００００１～

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

～特　徴～

○Monkey（FI）に、弊社製R－Stageシリンダーヘッドを取り付ける際に必要となる、FIコンPLUS と、大容量フューエルインジェクタのセットです。
○内部に弊社オリジナルの点火マップ及び燃料噴射マップを持つ事により、R－Stageヘッドが持つ性能を、フルに引き出すことが出来ます。
○本体にロータリースイッチを３つ備えており、それぞれのスイッチにより、
　SW1：エンジンリミッター回転数の設定　（７０００rpm～１６０００rpmの１６段階設定）
　SW2：エンジン仕様による、燃料噴射マップの設定　（有償バージョンアップ開発中）
　SW3：選択したマップの補正　（－１０％～＋２０％の１６段階設定）
　といったセッティングが可能となります。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

◎併用出来ない部品について。
　社外品のH.I.D.キットはバラスト／インバーター（電圧変換装置）からデジタル回路に悪影響を与える高電圧ノイズが出る場合がほとんどで、製品故障や動作不良の原因となりますので、絶対に同時装着しないで下さい。
　社外品の点火装置（イグニッションコイルやプラグコード）は点火電圧のアップに伴う、放射ノイズの増大により誤動作や製品故障の原因となりますので使用しないで下さい。
　社外品の発電装置は発電量の不足や電圧波形の違いにより故障の原因となりますので、使用しないで下さい。

◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
◎この製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どの様な事柄でも一切負いかねます。
◎製品を加工等された場合や取り付けられた場合は、保証の対象にはなりません。
◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。
◎当製品は、上記適応車種、フレーム番号の車両専用品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意下さい。
◎補修部品に付きましてはリペア品番にてお申し込み下さい。尚、不明な点がございましたらお買い求め販売店にお問い合わせ下さい。
◎取り付けの際には、工具等を準備し、取付け要領に従って十分注意して作業を行って下さい。
　尚、この取扱説明書やホンダ純正サービスマニュアルは、基本的な技能や知識を持った方を対象としております。
　取り付け等の経験の無い方、工具等の準備が不十分な方は、技術的信用のある専門店へ、取り付け作業を依頼されることをお勧め致します。
◎レブリミッターは１２５００rpm以上の設定も可能ですが、弊社エンジンの許容回転数を超過する為、１２５００rpm回転以上の設定を使用する場合は、自己責任に於いてご使用下さい。
　（尚、１２５００rpm回転以上の設定をして１度でも電源を入れると、コントローラーの内部メモリに履歴が残る様になっています。）

⚠注意　この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

・一般公道では、法定速度を守り遵法運転を心掛けて下さい。
　（法定速度を越える速度で走行した場合、運転者は道路交通法、速度超過違反で罰せられます。）
・作業等を行う際は、必ず冷間時（エンジンおよびマフラーが冷えている時）に行って下さい。（火傷の原因となります。）
・作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品の破損、ケガの原因となります。）
・規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行って下さい。（ボルトおよびナットの破損、脱落の原因となります。）
・製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行って下さい。（ケガの原因となります。）
・走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みがあれば規定トルクで確実に増し締めを行って下さい。
　（部品の脱落の原因となります。）

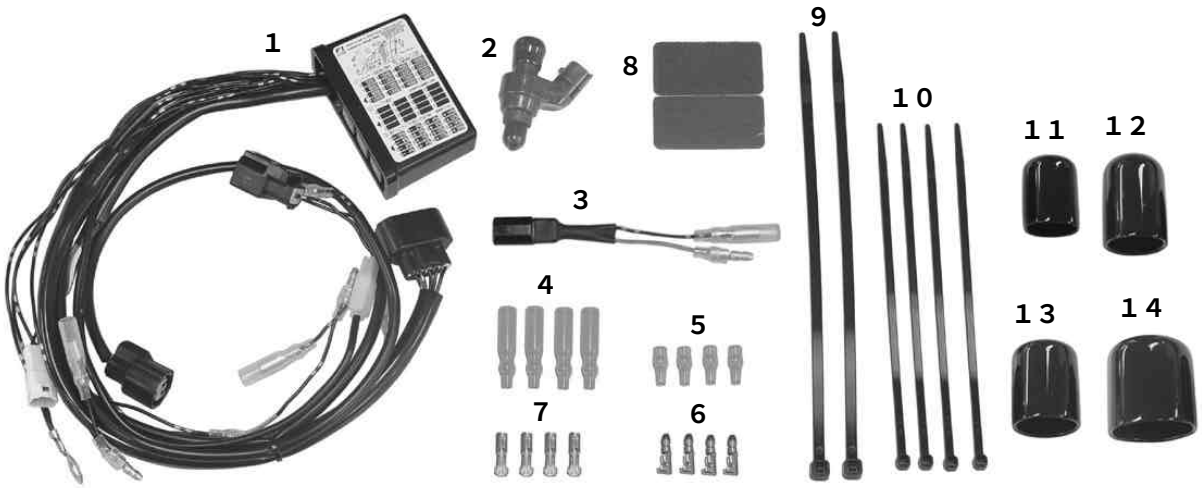
⚠警告　この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

・FIコンPLUSを装着すると、サイドスタンドを出したままギアシフトしてもエンジンが停止しなくなります。発進前には必ずサイドスタンドを格納して下さい。（転倒や事故の原因となる恐れがあります。）
・エンジンを始動させての点検は、必ず換気の良い場所で行って下さい。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。
　（一酸化炭素中毒になる恐れがあります。）
・走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。（事故につながる恐れがあります。）
・作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行って下さい。（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）
・点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。
　（不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。）
・点検、整備等を行った際、損傷部品が見つかれば、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行って下さい。
　（そのまま使用すると事故につながる恐れがあります。）
・製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。（幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。）

◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品および価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
◎クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後１ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。
◎この取扱説明書は、本製品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

Feb./08/ 13　rev.Oct./17/ 13

～商　品　内　容～



番号	部　品　名	数量	リペア品番	入数
1	ＦＩコンＰＬＵＳ　Ａｓｓｙ．	1	――――――	
2	フューエルインジェクタ　ＡＳＳＹ．	1	００－００－０２７１	1
3	サブハーネス―２ＣＯＭＰ．	1	００―０５―００４２	1
4	リセプタクルキャップ（ギボシメス　スリーブ）	4	００－００－０２７０	5 set
5	プラグキャップ（ギボシオス　スリーブ）	4		
6	プラグ（ギボシオス端子）	4		
7	リセプタクル（ギボシメス端子）	4		
8	マジックテープ	1	００－００－０１５０	1
9	タイラップ　２００mm	2	００－００－０２６９	１０
１０	タイラップ　１５０mm	4	００－００－０１３５	１０
１１	キャップ　φ１５.５	1	００―００―０２８４	1
１２	キャップ　φ１８	1	００―００―０２８５	1
１３	キャップ　φ１９	1	００―００―０２８６	1
１４	キャップ　φ２５	1	００―００―０２８７	1

※リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。
あらかじめご了承下さい。
尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいます様お願い致します。

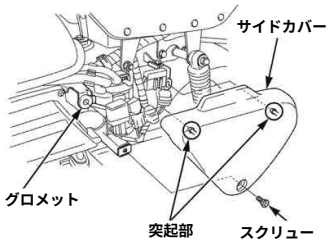
～取　り　付　け　要　領～

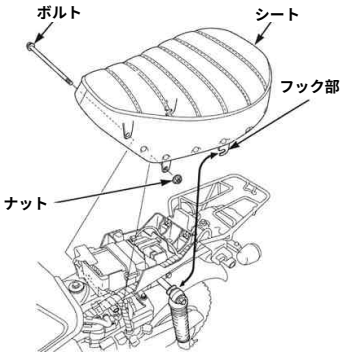
■はじめに

本商品は、純正のＰＧＭ－ＦＩシステムが問題なく作動している事を前提として開発されています。
ＰＧＭ－ＦＩシステム自体にトラブルや不調がある場合は、本商品を取り付けても正しく作動しなかったり、性能が発揮できないばかりでなく、他の箇所が故障する原因にもなりかねませんので、必ずＰＧＭ－ＦＩシステムにトラブルが無い事を確認の上で、取り付け作業を行って下さい。

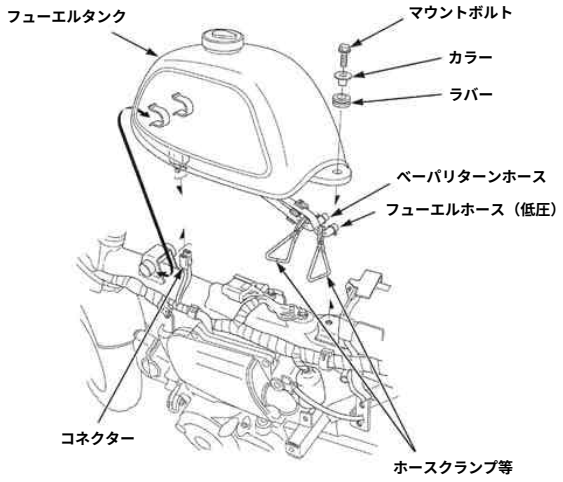
■純正部品の取り外し

１．水平で安全な場所で、メンテナンススタンド等を用いて車両を安定させます
２．純正サービスマニュアルを参照し、下記作業を行います。
・左サイドカバーとシートを取外します。

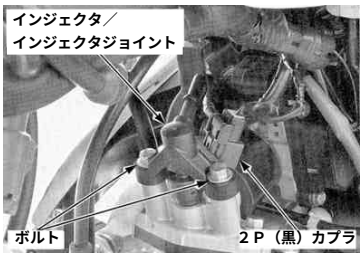




・バッテリーからバッテリーコネクターを外しておきます。
・フューエルラインに掛かっている燃料圧力を抜きます。
・フューエルタンクを取り外します。



・純正インジェクタの２Ｐカプラと、ボルトを２本取外して、純正インジェクタを取り外します。



⚠警告：ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が回りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、通気の良い場所で作業を行って下さい。

⚠注意：フューエルラインのクイックコネクターは外しませんが、ホースが折れ曲がらない様に作業して下さい。

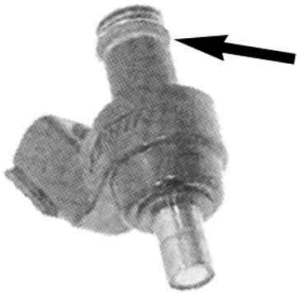
３．純正ハーネスの、スロットルボディーセンサーカプラ（５Ｐ）・油温センサカプラ（２Ｐ）・イグニッションコイルに接続されている桃／青ハーネスは使用しませんので、それぞれ接続を外します。

４．スロットルボディーセンサカプラ（５Ｐ）にキャップφ２５、油温センサカプラ（２Ｐ）にキャップφ１８を被せ、桃／青ハーネスと共にフューエルタンク下等に引き込み、タイラップで固定するなどして、車両をノーマルに戻す際に使用出来るようにしておきます。

⚠注意：使用しない配線類もノーマルに戻す際は必要になりますので、切断しないで下さい。

■ＦＩコンＰＬＵＳの取り付け

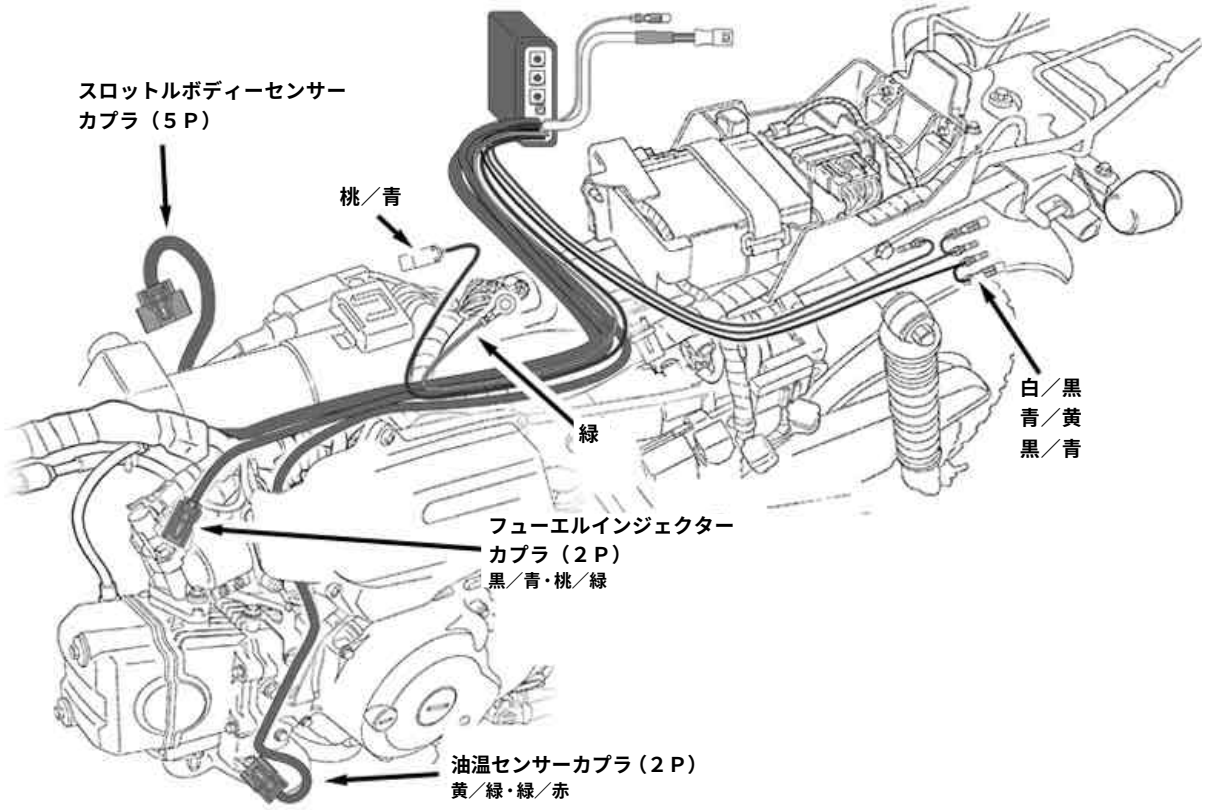
１．本キット付属のインジェクタの両端に付いているラバーキャップを外し、Ｏリング部にエンジンオイルを塗布します。
外したラバーキャップは純正インジェクタに取り付け、車両をノーマルに戻す際に使用出来るように保管しておいて下さい。



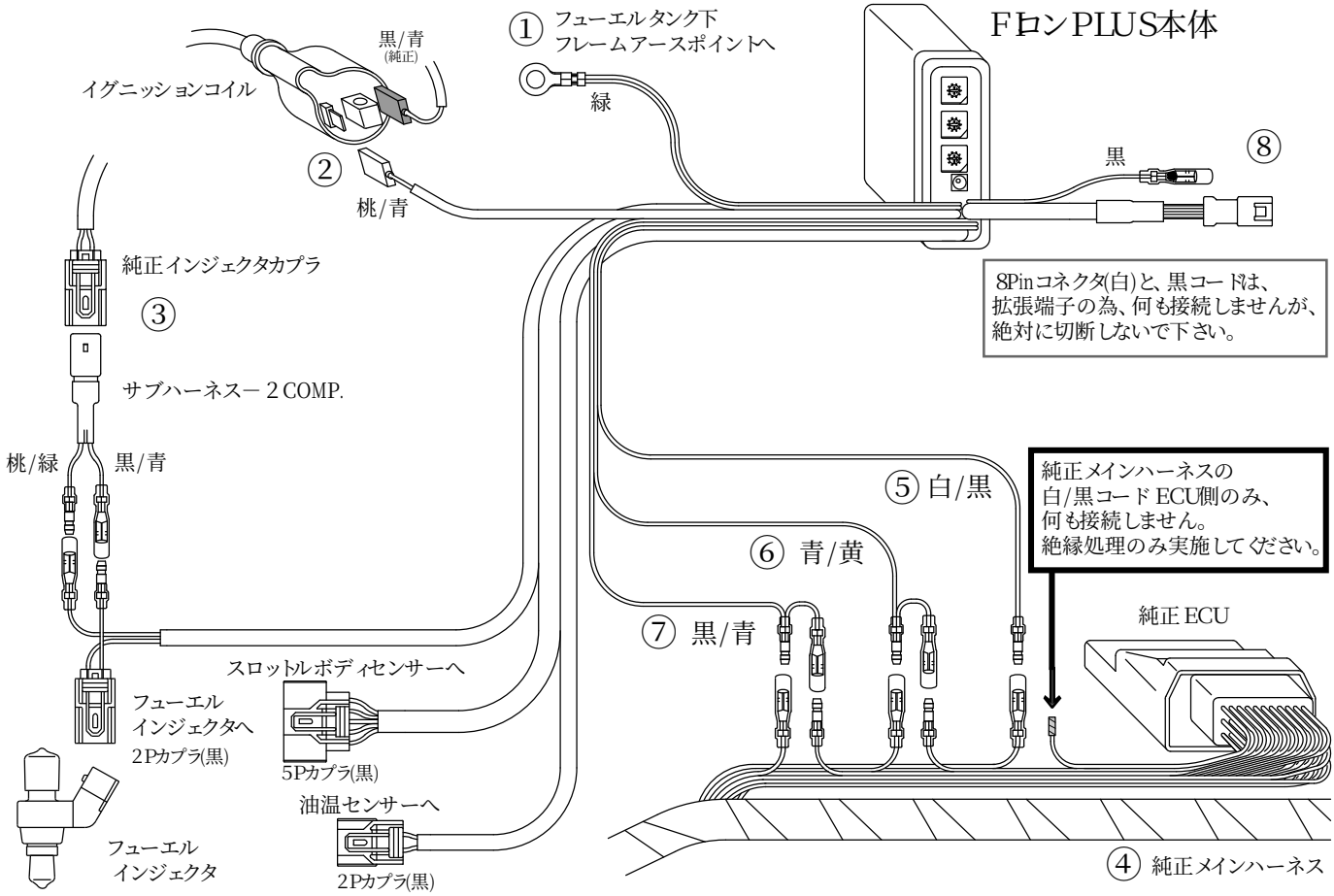
２．インジェクタを、純正インジェクタジョイントに取り付けます。

３．車両のインテークマニホールドに、インジェクタ／インジェクタジョイントを取り付け、ボルト２本を規定トルクで締め付けます。
トルク：１２Ｎ・ｍ（１.２ｋｇｆ・ｍ）

４．ＦＩコンＰＬＵＳの配線作業を行います。まずは図を参照しながら各ハーネスを車両に這わせます。



５．図中番号の順に、注釈を確認しながら作業を行なって下さい。
なお、本取扱説明書中のコード色表記は、ベース色／ライン色としています。
白／黒という表記のコードは、白色の被覆に黒色のラインが入っているコードを表します。



①フレームアース
純正ハーネスのアース端子が、フレームの１箇所に集合して接続されている部分（フューエルタンク下側）に、共締めします。

②イグニッションコイル
純正の黒／青ハーネスは接続したまま、純正の桃／青ハーネスをＦＩコンＰＬＵＳの桃／青ハーネスに差し替えます。
（取り外した純正の桃／青ハーネスには何も接続しません。）

③純正インジェクタハーネス
ＦＩコンＰＬＵＳ本体のフューエルインジェクタへ接続する２Ｐカプラ部分のギボシ端子に、キット付属のサブハーネス－２ＣＯＭＰ．を接続し、サブハーネスのカプラを純正ハーネスのインジェクタハーネスカプラに接続します。

④純正メインハーネス
シート下部にて、純正ハーネスから純正ＥＣＵへ分岐している配線束がありますが、ギボシ端子を取り付け出来る様に、配線を束ねているビニールテープ等を切り開いて取り除きます。

⑤白／黒コード
純正ハーネスの白／黒コードを切断し、メインハーネス側のみメスギボシ端子を取り付け、ＦＩコンＰＬＵＳの白／黒コードと接続します。
★重要★　純正ＥＣＵ側には何も接続しません。ビニールテープを巻くなどしてショート等しない様に絶縁しておきます。

⑥青／黄ハーネス
純正ハーネスの青／黄ハーネスを切断し、
純正ＥＣＵ側にオスギボシ端子を取り付け、メインハーネス側にメスギボシ端子を取り付け、ＦＩコンＰＬＵＳの青／黄ハーネスを両方とも接続します。

⑦黒／青ハーネス
純正ハーネスの黒／青ハーネスを切断し、
純正ＥＣＵ側にオスギボシ端子を取り付け、メインハーネス側にメスギボシ端子を取り付け、ＦＩコンＰＬＵＳの黒／青ハーネスを両方とも接続します。

⑧８Ｐｉｎ白コネクタ・黒ハーネス
８Ｐｉｎ白コネクタと黒ハーネスは拡張端子の為、現在は何も接続しませんが、絶対に切断しないで下さい。

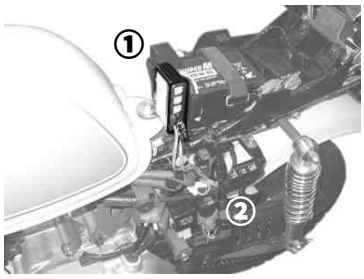
○フューエルインジェクタ・スロットルボディセンサー・油温センサーの各カプラを、それぞれ確実に接続します。

６．配線を接続し終わりましたら、間違いがないか確認し、問題なければバッテリーコネクターを接続します。

⚠注意：フューエルタンクへの配管を接続するまでは、絶対にキーをＯＮにしないで下さい。
ガソリンがフューエルポンプから噴出する恐れがあります。

７．ＦＩコンＰＬＵＳ本体は、写真内①の様にバッテリー前部にキット付属のマジックテープで固定するか、写真内②の左サイドカバー内に、タイラップで固定して下さい。

⚠注意：固定する際はなるべく雨等の水が掛かりにくい場所を選び、また水等がスイッチ内に浸入しにくい様に、ＦＩコンＰＬＵＳ本体のロータリースイッチが上（天）を向かない様に固定して下さい。



８．弊社製バッテリーケースキットを併用される場合、車両左側に移設されたバッテリーケース前部やフューエルタンクとフレームの隙間等に設置して下さい。

⚠注意：ＦＩコンＰＬＵＳの配線等が、チェーンやドライブスプロケットに巻き込まれたりしない様に、配線を適切に取り回して固定して下さい。

９．タイラップで適宜配線を固定し、フューエルタンクとシートを元通り組み付けます。

■動作確認

１．配線に問題がないか、一度イグニッションキーをＯＮにします。
キーをＯＮと同時に、下記動作が行われているか確認して下さい。
・エンジンチェックランプが１秒程度点灯して消える。
・フューエルポンプが２～３秒程度作動する。

⚠注意：キーをＯＮにするだけで、エンジン始動はしないで下さい。

２．上記の通り作動している場合は、次の項目［初期設定］に進んで下さい。
上記の通り動作しない場合は、下記項目に従い点検を行って下さい。
問題が解決しなければエンジンは始動しません。

・キーＯＮでＦＩコンＰＬＵＳ本体の電源ＬＥＤ（緑色）が点灯しない場合
→バッテリーコネクターの接続を確認する。
→バッテリー電圧が正常か確認する。
→ヒューズが切れていないか確認する。

・エンジンチェックランプが点滅し続ける場合
→油温センサーカプラが抜けていないか確認する。

・エンジンチェックランプが２回点滅する場合
→バッテリーの電圧が低い場合（約１１Ｖ以下）は、２回点滅します。バッテリーの状態を点検し、必要に応じて充電若しくは交換して下さい。

・エンジンチェックランプが点灯しない場合
→白／黒の配線が、切断したメインハーネス側に正しく接続されているか確認する。
→エンジンチェックランプが球切れしていないか確認する。

・エンジンチェックランプを純正以外の物に変更している場合、
→純正のエンジンチェックランプで再確認して下さい。

・フューエルポンプが動作しない場合
→燃料圧力を抜いた際に、フューエルポンプの２Ｐカプラが外れたままになっていないか確認する。

■初期設定（スロットルポジションセンサーの学習）

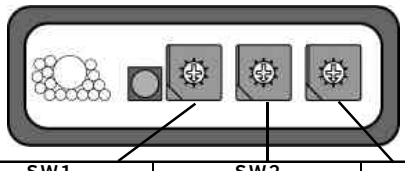
・車両に取り付けた初回や、スロットルの全閉位置を調整した場合等は、スロットルポジションセンサーの全閉・全開位置を内部メモリに学習する作業が必要になります。
下記手順に従って作業を行って下さい。

１．キーがＯＦＦになっている事を確認し、油温センサーカプラをセンサーから外し、何も接続しない状態にします。
２．キーをＯＮにします。
３．エンジンチェックランプが点滅し続ける事を確認して下さい。
（約０．２５秒点灯　約０．７５秒消灯の繰り返し）
４．スロットルをゆっくりと全開にし、全開のまま１秒程度保持し、ゆっくりと全閉に戻します。
５．油温センサーカプラをセンサーに接続します。
６．エンジンチェックランプの点滅が止まり、消灯する事を確認して下さい。
７．キーを一度ＯＦＦにします。
８．以上の作業でスロットルポジションセンサーの全閉・全開位置を学習します。

！ポイント！　学習した内容はバッテリーの接続を外しても消えませんので、作業は基本的に初回のみですが、何らかの要因によりＦＩコンＰＬＵＳの作動が不安定に陥った場合、上記学習作業を再度行う事でトラブルが解消される場合があります。

■ロータリースイッチの設定

・ＦＩコンＰＬＵＳはロータリースイッチを３個搭載しており、それぞれリミッター回転数・マップの種類・マップの補正値を設定する事が出来ます。
下記表を参照し、ご使用になるエンジン仕様に合わせて設定を行って下さい。



設定	SW1 リミッター回転数の選択	SW2 マップの選択	SW3 燃料マップの補正量
0	７０００	ＭＮＲ１０	－１０％
1	８０００	－	－８％
2	９０００	－	－６％
3	１００００	－	－４％
4	１０５００	－	－２％
5	１１０００	－	０（基準）
6	１１５００	－	＋２％
7	１２０００	－	＋４％
8	１２５００	－	＋６％
9	１３０００	－	＋８％
A	１３５００	－	＋１０％
B	１４０００	－	＋１２％
C	１４５００	－	＋１４％
D	１５０００	－	＋１６％
E	１５５００	－	＋１８％
F	１６０００	－	＋２０％

マップの種類－適応エンジン仕様

マップの種類	適応エンジン仕様
ＭＮＲ１０	Ｒ－Ｓｔａｇｅ ＋ Ｆ１０カム ＋ 弊社製エアフィルター ＋ 弊社製マフラー

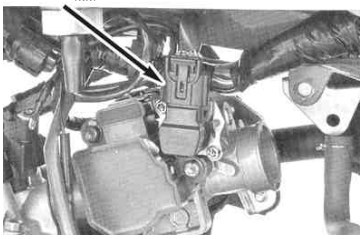
⚠注意１：１２５００ｒｐｍ以上の設定は、弊社エンジンの許容回転数を超える為、ご自身の責任に於いてご使用下さい。
オーバーレブによるトラブルは、一切クレームの対象となりませんのでご注意下さい。
また、ＳＷ１を８～Ｆの設定にして１度でも電源をＯＮにすると、内部メモリに使用履歴として記録され、消去出来ません。

⚠注意２：マップの内容が[　－　]となっている物を選択した場合、０番と同じ設定となります。

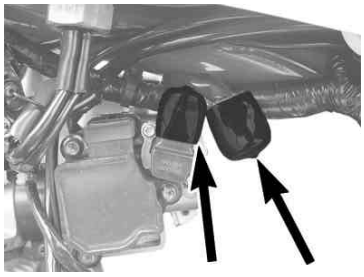
⚠注意３：マップ補正量は、全域に反映されます。
特に減量側（マイナス側）の設定は、エンジン仕様によってはトラブルの原因となりかねませんので、Ａ／Ｆ計を取り付けた上で、慎重にご使用下さい。
減量側の設定は、エンジンセッティングに関する知識の無い方は使用しないようにして下さい。
また、エンジン回転中にマップ補正量を変更しても、エンジンを一旦停止し再始動するまで反映されません。

■ＩＡＣバルブについて

１．ＩＡＣバルブの４Ｐカプラが正しく接続されている事を確認し、キーをＯＮにすると、数秒間ＩＡＣバルブの作動音がします。



２．作動音がしなくなったら、キーをＯＦＦにし、ＩＡＣバルブの４Ｐ（黒）カプラの接続を外し、ＩＡＣバルブのカプラ部にキャップφ１５.５、ハーネス側のカプラにキャップφ１９を被せて、カプラ開口部を塞いでおきます。



⚠注意：ＦＩコンＰＬＵＳ使用時は、ＩＡＣバルブを使用しませんが、何らかの理由により動作不調になった場合や、スロットルボディを交換した場合等には、再度接続する必要がありますので、ハーネスは切除しないで下さい。

⚠注意：ＦＩコンＰＬＵＳは、純正のＩＡＣバルブを利用せずアイドリング回転数を制御しますので、ＩＡＣバルブのカプラは外したままで使用します。
ＦＩコンＰＬＵＳ使用時に、ＩＡＣバルブを動作させるとアイドリングが不安定になったり、低くなりすぎたりします。

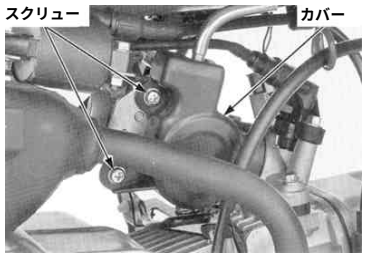
■始動確認

⚠警告：エンジンを始動させての点検は、必ず換気の良い場所で行って下さい。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。（一酸化炭素中毒になる恐れがあります。）

１．ここではまず、設定をＳＷ１…０／ ＳＷ２…０／ ＳＷ３…５と設定します。
２．キーをＯＮにし、フューエルポンプの作動音が止まればキーをＯＦＦにする作業を数回繰り返します。
（フューエルラインのガソリンが抜けている為、ガソリンを送り込みます。）
３．キーをＯＮにしエンジンを始動します。
⚠注意：始動時は、スロットルを全閉～微開にて行って下さい。
スロットルを開けながらキックしても、エンジンは始動しません。
４．エンジンが始動したら、エンジン油温が約７０℃以上になるまでしっかりと暖機します。
５．アイドリング回転数を確認します。
規定アイドリング回転数：１８５０ｒｐｍ±５０ｒｐｍ
アイドリング回転数が規定から外れている場合は、アイドリング調整の項目を参照し、調整を行って下さい。
⚠注意：冷間時はアイドリング回転数をを高く保つ制御をしています。
暖機終了後に確認を行って下さい。

■アイドリング調整

１．スロットルボディ右側（マフラー側）のスクリュー２本を取り外し、カバーを取り外します。



２．スロットルボディのストッパースクリュー（白色ペイントで固定されているスクリューとナット）を固定しているナットを緩め、スクリューを１／８回転程度ずつ回転させ、ナットを締め付けます。
スクリューを締め込む方向に回転させるとアイドリング回転数は上がり、スクリューを緩める方向に回転させるとアイドリング回転数は下がります。

⚠注意：マフラーやエンジン等で火傷をする恐れがありますので、作業は冷間時に行って下さい。
３．スロットルポジションセンサーの学習作業を再度行います。
⚠注意：スロットルの全閉位置が変わった場合は、必ず毎回スロットルポジションセンサーの学習作業を行って下さい。
４．エンジンを始動しアイドリング回転数を確認します。
規定アイドリング回転数になるまで、上記２～４の作業を繰り返して調整を行って下さい。
⚠注意：ストッパースクリューを締め込み過ぎても、逆にアイドリングは安定しなくなります。
⚠注意：走行後等にアイドリング回転数が高めになってしまう場合は、アイドリング調整を行った時のエンジン暖機が不十分だった事が原因として考えられます。
スクリューを緩める方向に回転させて、再度スロットルポジションセンサーの学習を行い、アイドリング回転数の確認を行って下さい。

●　トラブルシューティング　●

ＦＩコンＰＬＵＳ取り付け後、不具合をお感じになられましたら、まずは下記表から、該当する症状に応じた項目を点検して下さい。

不具合症状	点検箇所　→　対処方法
エンジンが始動しない	エンジンの組み付け自体に問題はありませんか？ →エンジンが正しく組み付けられているか、バルブタイミングやタペットクリアランスに問題が無いか確認して下さい。
	キーＯＮ時に、ＦＩコンＰＬＵＳ本体の緑ＬＥＤが点灯し、純正のエンジンチェックランプが１秒程度点灯した後、消灯していますか？ →本取説５ページ目　■動作確認　の項目に従い、配線を点検して下さい。
	エンジン組み付け後、初めての始動ですか？ →フューエルインジェクタを脱着している為、フューエルライン内にエアが残っている場合があります。その為、初回始動時はエンジンが始動しにくい場合があります。
	しばらくキックしてもエンジンが始動しない。 →一度キーをＯＦＦにし、再度キーをＯＮにしてから、始動してみて下さい。
	スロットルを開けながら始動していませんか？ →ＦＩコンＰＬＵＳはクランキング時に発生する吸気負圧を制御に利用していますので、スロットルを開けながら始動しても、エンジンは始動しません。必ず全閉～微開にて始動を行って下さい。
アイドリングが持続せず、ストールする	初期設定（スロットルポジションセンサーの学習）を実施されましたか？ →初期設定を再度実施してみて下さい。アイドリング調整を行った場合も、毎回必ず実施して下さい。
	マップ選択スイッチや、マップ補正スイッチが適正なセッティングになっていますか？ →スイッチの設定を再確認して下さい。特にマップ補正スイッチは５番が基準となっていますので、ご注意下さい。
	ＩＡＣバルブの接続を、正しく外していますか？ →ＦＩコンＰＬＵＳは、純正のＩＡＣバルブのカプラを外したままで使用します。必ず、キーをＯＮにし作動音がしなくなった状態でカプラの接続を外し、外したままでご使用下さい。
スロットルを開けても回転が上がらない／アイドリングするが、スロットルを開けるとストールする	初期設定（スロットルポジションセンサーの学習）を実施されましたか？ →初期設定を再度実施してみて下さい。アイドリング調整を行った場合も、毎回必ず実施して下さい。
	リミッター回転数の設定スイッチは問題ありませんか？ →ＳＷ１のリミッター回転数の選択次第では、７０００ｒｐｍからリミッターがかかります。選択されている設定に問題がないか確認して下さい。
エンジンチェックランプが、７回・８回・９回点滅といった故障コードを表示する／エンジンチェックランプが、不規則な点滅をする	ＦＩコンＰＬＵＳ本体は、このような故障表示パターンを出力しない仕様になっています。 メインハーネスの白／黒コードを切断した後、純正ＥＣＵ側のコードも接続されている可能性があります。 本取説４ページ目、⑤白／黒コードの接続部分を再点検し、純正ＥＣＵ側のコードには何も接続されていない事を確認して下さい。
エンジンが始動せず、エンジンチェックランプが点滅もしくは点灯し続ける。	取り付け当初は問題なく、使用途中からこの様な症状が発生した場合は、ＦＩコンＰＬＵＳが動作出来ない異常（センサーハーネスの断線など）が発生している可能性があります。速やかに使用を中止し、チェックランプの点灯・点滅パターン及び、どのような時に点灯・点滅しだしたかをお手元にお控え頂いた上で、弊社までお問合せ下さい。
エンジンは始動出来、走行も出来るがエンジンチェックランプが点灯し続ける。	取り付け当初は問題なく、使用途中からこの様な症状が発生した場合は、⑤白／黒コードがどこかフレーム等でショートしている可能性があります。この場合は、キーＯＮにした段階でチェックランプが点灯したままになり、油温センサーカプラを抜いても、初期設定の点滅になりません。
点火プラグに火花が飛んでいない。	点火プラグはシリンダーヘッドに取り付けてありますか？ →点火プラグを抜いた状態や、スロットルを開けた状態でクランキングしても、火花は飛びません。
スーパーマルチＤＮメーターと併用しているが、エンジンチェックランプが点滅しない。	弊社製スーパーマルチＤＮメーターのＷＡＲＮＩＮＧ　Ａ／Ｂランプをエンジンチェックランプとして使用する場合、メーター側の仕様上、初期設定時の点滅やキーＯＮ時の点灯が表示されません。

株式会社 SPECIAL PARTS 武川
〒５８４－００６９　大阪府富田林市錦織東三丁目５番１６号
TEL ０７２１－２５－１３５７　FAX ０７２１－２４－５０５９　URL http://www.takegawa.co.jp
お問い合わせ専用ダイヤル　０７２１－２５－８８５７

Feb./08/ 13　rev.Oct./17/ 13